



君の温かい血を

— 愛の献血 —

△6回目でも針を刺されるときは緊張します



△月1回JR富士駅前ですべて待っています

市民の皆さんの善意を求めて、市内を献血車が巡回しています。が、一月二十七日は、JR富士駅前によつて来しました。

献血できるのは十六歳から六十四歳まで、この日は四十七人合計十一リットルの血液が集まりました。

採血は、待つ時間がなければ二百ccで二・三分で終わります。やつと決心して初めて献血した人や、十六歳から始めて六十二回目というベテランもいました。が、一度献血すると、またしようと思うようです。

採血された血は血液検査が行われ、献血した人には、肝機能など健康状態を知らせてくれます。



△音楽隊は三十人

楽しく聞いたよ

親と子で音楽に親しむ会



△演奏に合わせてお母さんと一緒に歌ったよ

一月二十九日、大淵第一小学校の体育館に、県警察音楽隊の演奏が鳴り響きました。

親と子が一緒に音楽を楽しもうと、同校PTAが開いたもので、行進曲、童謡メドレーなど七曲が演奏され、途中、「四季の歌」などお母さんたちのコーラスもありました。

一度に体育館に入り切れないため、低学年と高学年に分けて、それぞれ四十時間の演奏会でしたが、みんな笑顔で聞き入っていました。



力を合わせた若者のまつり

ヤングフェスタ



△豆まきの鬼役で逃げ回るお兄さん

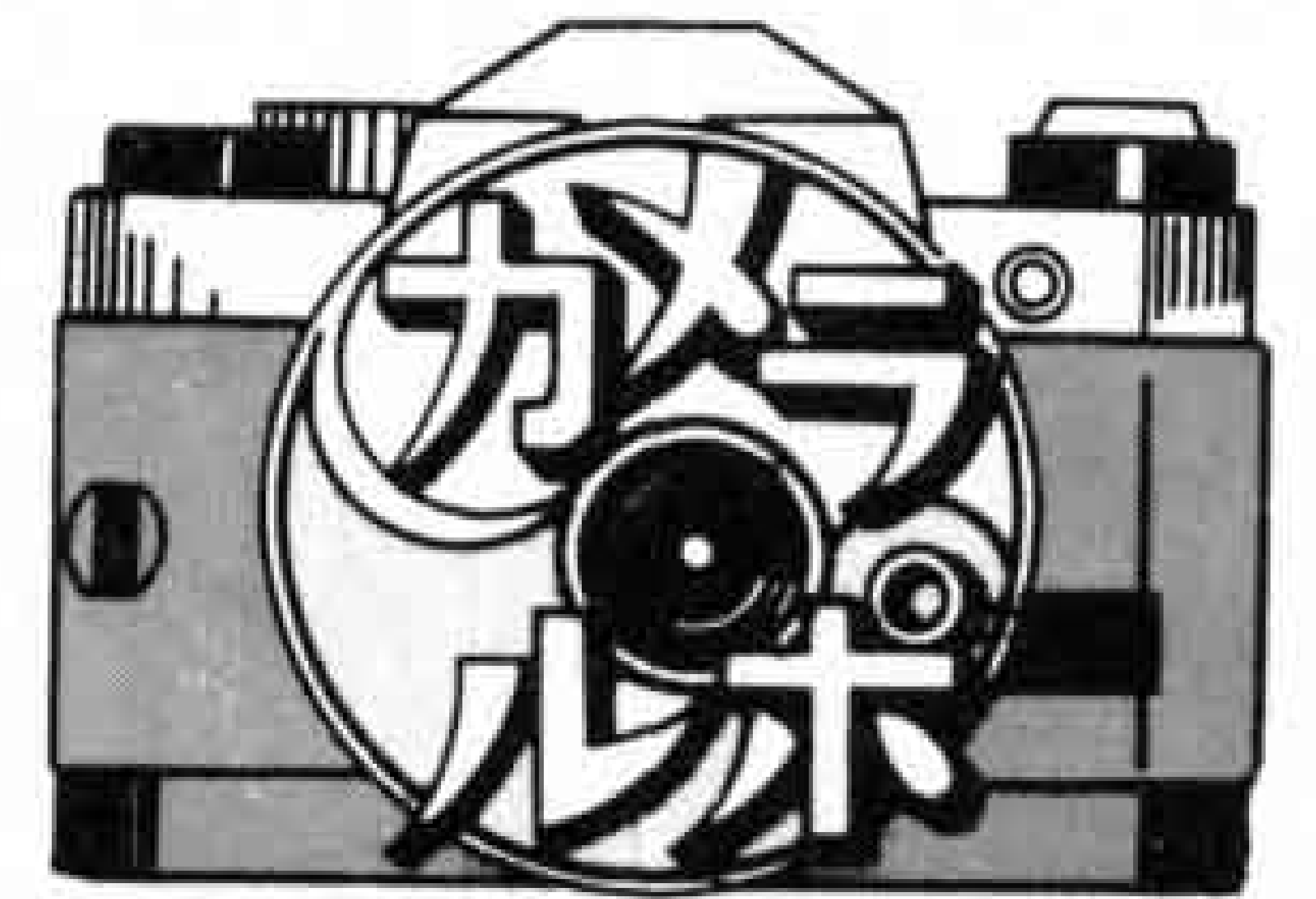
二月四日、曇り後雨。こんな天気を吹き飛ばすかのように若者の祭り「ヤングフェスタ」が青少年センターで行われました。
ステージでは社交ダンスなど、日ごろの練習が披露され、中でも似顔絵の人を捜す「あんちゃんを捜せ」は、子供たちに大評判。また、もうけなしの焼きそば、おでんなどサーブスいっぱいのお祭りでした。



△しとやかな一面も披露



△若者の夢を膨らませて



△起震車で震度7まで体験

東海地震の地震防災対策強化地域に指定されてからはや十一年。年々低下する地震に対する意識を高めようと、一月三十日～二月二日まで、庁舎二階の市民ギヤラリーと西口広場などで「地震防災展」が行われました。
会場には、地震発生のメカニズムや家屋の揺れがわかる模型などが展示されたほか、新型移動式炊飯器の実演もありました。



△消火器で消火実験

忘れたころに やつて来る？

『90県地震防災展』